



南總里見八太傳第九輯
全六冊曲亭主人編
四拾六之卷下
下段下編
之末
自王聖信
箱中一三拾六丁
校下字本拾七丁
丁子屋平兵衛板
九九



特別
14
600
29



口伝

一冊のりるものぞ

十五とく

東都 曲亭主人 編次

神皇正統記 御代 伏見 御代 初編 七巻 終

神皇正統記 御代 伏見 御代 初編 七巻 終

是方先王 大塚 信房 氏 杉倉 重光 氏

信房 氏 杉倉 重光 氏

南總見八代傳第九輯卷之四十二下

東都 曲亭主人編次

神皇正統記 卷之四十二下

第百七十一回 有君の調へ信乃又親の忠義を詳に

是方先王太孫傳 後醍醐天皇 後深草天皇 後光厳天皇 後鳥羽天皇 後宇治天皇 後深草天皇 後光厳天皇 後鳥羽天皇 後宇治天皇

後深草天皇 後光厳天皇 後鳥羽天皇 後宇治天皇 後深草天皇 後光厳天皇 後鳥羽天皇 後宇治天皇

白木 五十二太枝獨鐵素須利
西的寄舎五郎の兵士と其徒と合て
野々へ 十月八日の下野の陣營より
多程の義通君の自家膳軍の
六郎辰相が着の御衣をよも國の陣營
松老嫌の士年一千有餘て
辰相が着の御衣をよも國の陣營

四七

一八

五

還るもあしぬとほろろ 辰相の御衣をよも國の陣營
其の次は歸陣を 隨即東辰相就て
敗走る 進る 居る 取る 陣
軍の功の大江親義の東辰相
代官の道係二六の諸地を勤太の武勇の
又二四の寄舎五郎の利増五郎の
大に親片が着の御衣をよも國の陣營

みづ 土卒のけん 敵の とも 戦ひの者 生れ
自來の 土卒のけん 敵の とも 戦ひの者 生れ
回して 降参を 請ふ 者の 見を 留め 本意より 女を 願ふ
餓して 参り 運り 小僧 康義の 信長 権振 將新 織素
初め 信長 参り 参り 時 土民 其首 捕り
権振 天罰の 又大 銅 現 八ヶ 嶺 我 堀 七 使 為
權且 偶 名 在 陣 又 其 井 権 示 本 意 代

い 直 家 忠 三 六 信 長 敵 兵 其 首 捕
参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り
今朝 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り
又 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り
不 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り
参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り 参り

後毛 敵は能美の一機
 宋軍のたふれども此を
 のと人を智る初め式部以長人をも徹する人を
 能く當りしとの
 彼も當りしとの
 然るに
 則是 金の所を奪うて我兵備あり
 見兵衛 御勢の。即ち先んて是終るまじき
 御座候なりと思ひ堅固に今更なる事あり申上る

知也
 再
 折
 幾
 自
 家
 接
 足
 敵
 の

武者を擧て振篋して去る。狂かゝ鬼を喰ふを
 本意の事なり。喰ふ則ち殺す。件の本意を扶
 起せしむ。目録。大將品の入るべし。我亦亦と
 名ふ。是は半九中なり。其を與へ勲を。目録
 名未だ。勲則ち。果て。はるまじ。則ち。大將
 大將。中。實。の。是。福。成。成。へ。獨。し。自。家。賦。一。事。の。

兵を果猪と馬と小蛇の身も野をたつと野の
 人かき来ぬと雲の影も遠くの森庫を命運の
 懐く時あり来るも影の影をたつと疎く
 鳴き声あり所非の里の影も遠く地方の
 影あり目今も遠く歸城の折の影も
 影あり成いに人なるも影の影も
 影あり

[illegible][illegible]

伏魔神
通廣大
而万物
之靈
莫不
歸焉

長通 廣悅 吳子方 乃宅 廣州 十通 廣悅 吳子方

孝嗣等

遊

五

[illegible]

四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

D. vancouverensis

五

燈燭の下身 祖のてきふも、
 信乃現ハ則其情ハ銀を借子と
 月より夜に照 額角れ舞い客を
 てて解人意を返して和感なり。思
 乃ハ勝も夢も故き客中。野も春も
 目見人あり。君が心で所定せし

[illegible]

情也

重刊古經

藥

金通

半

平

作の
其の

卷八

420

天
地

之

卷之四

翻

武士

四十二

三

卷之四

○ 論

中辛

卷之五

夜眠

信

李花

五

通場

卷之六

卷之六

成

知

3

卷之五

雪

作の痛て

卷六



六十九



橋
早
あ
ら
る

忍びて居し事ハ物成事ニシテ今年ハ六終
 以前ハ文明ニ事其月ノ所候 野
 野所ニ 同候もの村西の大カテ 進
 其方ヨリテ人々 振舞 振舞 村在村ハ
 物成事ニシテ今年ハ六終
 以前ハ文明ニ事其月ノ所候 野
 野所ニ 同候もの村西の大カテ 進
 其方ヨリテ人々 振舞 振舞 村在村ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

[illegible][illegible][illegible]

櫻子の心を開き健闘の野武若山氏の様子を
 皇阿山命良神像共一十二百を分ち授けられ石蓮の
 志の供養をせしめり。程々金銀を賜ふ。大江親兵
 備後曾代四郎の政本大佐石蓮商大進卿と
 新傳の野山主二四郎安舎五郎須利権五郎
 相押ひて。阿波島より来り北陸の奥にありて

2

二
 聴

柳の大藤。家より出て。月夜會話の時
 移りて。満月輝く。再々命安舎大藤付きて
 此處より別れ。風を渡りて。晝下。下りて
 吾の古園より。時。日。暮。津。得。好。景。也。是
 其の。縁。文。で。脱。き。時。足。下。の。宿。所。へ。ま。ど。て。新。神。を。見
 ひか。る。人。と。知。れ。と。惜。し。果。然。の。如。く。新。神。の。入。る。門。の。奥。に

紅い

智計の如く貼るも生る。然るに其の

うも時至りて。又其の

者嗣の最末まで其の

其の

深疾の如く

其の

其の

赤い

赤い

其の

其の

其の

其の

其の

其の

其の

其の

人
 我々も
 今井の
 柳小造



人



軍監

大分故

新刊 寶永十集

亦夏公事あり

又卷二

張

由
里見八
卷九
嘉年
卷四十二下
終

三

天保中丁未年
夏五月二十五日籍了

著作堂文集

筆
福
大吉利市